

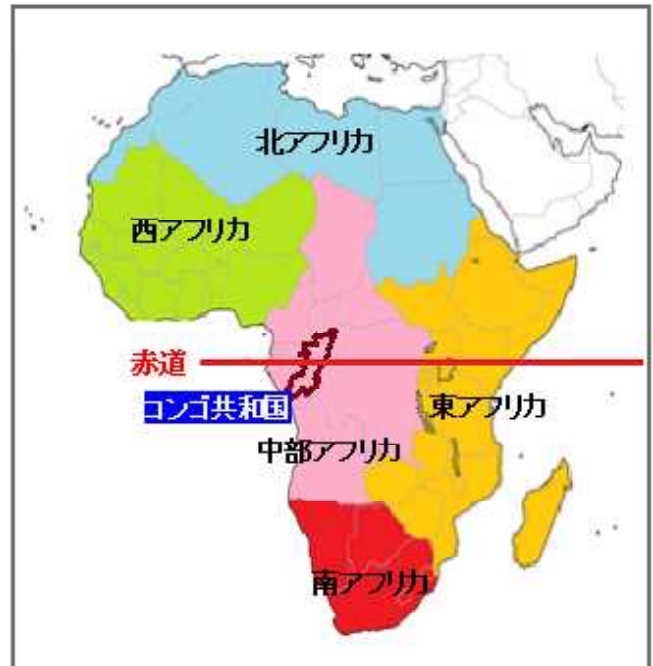
## アフリカからの便り その1

私たちが普段よく目にする世界地図は、緯度と経度が直交するメルカトル図法（円筒図法）というもので赤道付近こそ面積は正確ですが、緯度が大きくなるに連れて面積が拡大された地図になります。たとえば、アフリカ大陸と北アメリカ大陸の大きさを比べた時、面積が同じくらいだと勘違いしてしまう恐れがあります。実際には、二つの大陸の面積はどのくらい違うのでしょうか？ 世界の陸地の合計は約 15000万平方キロメートル、その内アフリカ大陸の面積はおよそ 3000万平方キロメートル、北アメリカ大陸は2500万平方キロメートルしかないのです。また、アフリカ大陸には 55の国や地域があるのも関わらず、この大きなアフリカ大陸をまとめて「アフリカ」としてしまう傾向にあります。この大陸には数多くの民族が居住し、宗教や文化は実に多様性に富んでいます。しかも19世紀からの150年間はヨーロッパ列強による植民状態にあり、そのくさびを現在まで引きずっているとも言えます。こうした経緯を踏まえて、国際連合（UN）ではアフリカ大陸を大まかに5つの地域に分けています。

さて、前置きが長くなりましたが、コロナ禍の中、海外に出かけることができなくなった今、ここでアフリカ在住の知人から届いた便りを先の地域ごとにいくつか連載で紹介しておきたいと思います。

まず第1回は中部アフリカからの便りです。中部アフリカとは、その名の通りアフリカ大陸の赤道付近を東から西に流れるコンゴ川のつくる広大な流域とその周辺地域をさしています。コンゴといえば、植民地時代にベルギー領であったコンゴ民主共和国が大きな面積を占め、豊富な地下資源とそれゆえの紛争、エボラ出血熱発祥の地としてなど「負のイメージ」として有名ですが、その北西の一角にコンゴ共和国という旧フランス領の小さな国があります。面積はほぼ日本と同じですが、国土の人口は550万人足らず。以前、中学生対象とした「道徳」の授業で紹介した平和を愛する紳士「サプール\*\*」が生活する地として知られています。外務省の資料によれば、この国に住む日本人は8名。その内の一人に小型のマルミジウ\*という絶滅の危機にある種の保護と研究をしている女性：萩原幹子さんというがいます。サプールの方と結婚され、コロナ禍の中でも現地を離れずアフリカの大地で活躍されています。

その彼女からの紹介で、まだまだ映画文化の発達していないコンゴ共和国にカメラ一台で自主映画の作成を夢見ている映画監督がいることを知りました。彼を支援するための呼びかけに私も賛同し、クラウドファンディングに参加しました。目標額はわずか60万円足らずという小さな基金ですが、日本のGDPと比べて15分の1という貧しい国では大きな金額です。撮影機材の購入だけでなく、あまりに少額に過ぎませんが、伝統的な地域文化を題材にした作品を作りたいと意欲に燃えているそうです。手書きの台本も無事に出来上がったそうで、着々と制作準備が進んでいるとの報告が届きました。



国連によるアフリカ地域区分とコンゴ共和国の位置



萩原さん提供の制作スタッフ写真

不思議なもので、広大なアフリカ大陸文化では、芸術的な活動は、私たちになじみのあるケニアやタンザニアなど東アフリカに行くほど低調だと言われています。西アフリカに負けず、ここ中部アフリカでも世界に通用する感性豊かな映像作品が出来上がることを期待しています。興味のある方は次のURLをご覧ください。

<https://motion-gallery.net/projects/congo-film>

\*東のサバナ地域に生息する大型のアフリカゾウに比べて、背高240cm足らずの熱帯雨林帯に棲む小型の丸みを帯びた耳をもつゾウ (*Loxodonta cyclotis*)。ref. book 西原 智昭(2020)『増補改訂版 コンゴ共和国 マルミミゾウとホテルの行き交う森から』現代書館、277ページ。

\*\*Sapeurとは、フランス語の *Société des ambianceurs et des personnes élégantes* (「おしゃれで優雅な愉快的仲間たちの会」という意味)の略語。Sapeとも呼ばれる。1950-60年代のコンゴでバリの高級な紳士ファッションに身を包み町中を闊歩するファッション。一時廃れたが、近年復権の傾向にある。